



3月1日～3月8日は、「女性の健康週間」です。
 主唱:(社)日本産科婦人科学会、(社)日本産婦人科医会、厚生労働省
 ～すべての女性の健康を生涯にわたり総合的に支援するために～
2009年も「女性の健康週間」運動を推進してまいります。


平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「女性の健康週間」は、産婦人科医が女性の健康を生涯にわたり総合的に支援することを目指し、2005年にスタートしました。社団法人日本産科婦人科学会、社団法人日本産婦人科医会、厚生労働省が主唱する国民運動として、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援するために、国や地方公共団体、関連団体が一体となり、2009年もさまざまな活動を展開いたします。

「女性の健康週間」の活動を報道関係の皆様のご理解とご協力をいただき発展させていきたいと考えております。事前の告知のご協力を何とぞよろしくお願い申し上げます。

またイベント当日の取材もお待ちしております。こちらは事務局の都合上、事前にお申し込みをいただけると幸いです。合わせてご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

2009年「女性の健康週間」について

- 実施期間 2009年3月1日(日)～8日(日)
- 主 唱 社団法人日本産科婦人科学会・社団法人日本産婦人科医会・厚生労働省
- 後 援 厚生労働省、内閣府、日本医師会、日本栄養士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本助産師会、日本乳癌検診学会、日本産婦人科乳癌学会、日本更年期医学会、日本周産期・新生児医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本女性心身医学会、全日本私立幼稚園PTA連合会
- メインテーマ **産婦人科医は、女性を守りつづけます。一生涯主治医がいる安心を一**
- シンボルマーク  women の W をモチーフに、上部に●を3つ並べることで、「母娘3代」と、体・頭・心の3点を意味し、産婦人科医による、女性の「生涯の健康」を「総合的に」サポートする姿勢をマークにしました。

(社)日本産科婦人科学会及び(社)日本産婦人科医会のホームページで、「女性の健康週間」の活動を紹介します。

- ・(社)日本産科婦人科学会ホームページ <http://www.jsog.or.jp/>
- ・(社)日本産婦人科医会ホームページ <http://www.jaog.or.jp/>

本件に関する問合せ先:

(社)日本産科婦人科学会・(社)日本産婦人科医会・厚生労働省 主唱

「女性の健康週間」運営事務局 担当:窪田・水溜・奥山・大和田

TEL. 03(5565)5526 fax. 03(5565)4914

〒104-0045 東京都中央区築地 1-9-4 ちとせビル (株)朝日エル内

Eメールアドレス fwh@ellesnet.co.jp

2009年「女性の健康週間」活動について

■女性の健康週間ポスター [2009 版]の作成・配布

産婦人科病院・医院にポスターを掲示し、産婦人科医が女性の生涯主治医であることをアピールしていきます。

- ・キャッチフレーズ： 私たちには主治医がいます。
- ・キービジュアル： 3世代の女性の笑顔



■女性の生涯健康手帳[2009 版]の作成・配布

「女性の生涯健康手帳」は、女性が自分自身の健康状態をチェックして、産婦人科の受診時に役立てていただくための手帳です。

2009年版は新デザインで、3月より産婦人科や女性の健康週間中の行事で配布します。

- ・仕様/A6 サイズ
- ・発行部数/20万部



今年度は新たに「月経チェックシート&生理用品サンプル」もしくは「更年期チェックシート」を手帳と一緒に配布します。



月経チェックシート
若い女性が、自分自身の月経周期や月経時の身体と心の状態などを細かく観察して記入することで自分の健康を考え直すきっかけに。また、産婦人科を受診する際に持参して医師の診察に役立てていただくことを目的に作成しました。

更年期チェックシート
そろそろ更年期という世代や更年期症状で悩んでいるという女性に向けて、自分でできる更年期のチェックリストを作成しました。自分の体調や状況を自身で把握する際や医師から正確な情報を伝える際に役立てていただけます。

○2009年「女性の健康週間」協賛企業

あすか製薬、アルソア、エムティーアイ、花王、キューオーエル、グラクソスミスクライン、サードウェーブジャパン、資生堂、スギ薬局、セシル、大正製薬、ツムラ、テルモ、ニッセン、日本新薬、バイエル薬品、万有製薬、P&G ジャパン、久光製薬、ポーラファルマ、三菱化学メディエンス、ワイス(五十音順)

■女性の健康週間2009 セミナー（参加費無料）

女性の健康広場 in 未来館 開催

- 実施期間 2009年3月4日(水)～7日(土) ●各日定員 先着 250 名
- 会場 女性と仕事の未来館(4階)(JR 田町駅三田口(西口)から徒歩3分、都営地下鉄三田線 A1 出口から徒歩1分)
- 主催 (社)日本産科婦人科学会・(社)日本産婦人科医会
- プログラム

オープニング(主唱者挨拶)

3月4日(水) 18:30～18:45

18:30- 厚生労働省健康局生活習慣病対策室室長 関英一
日本産科婦人科学会理事長 吉村泰典
日本産婦人科医会会長 寺尾俊彦

女性の健康週間セミナー

※講師や内容は変更の可能性があります。予めご了承ください

①3月4日(水) 18:45～20:15 <対象:20～30 代女性のために>

『健康 美!美!美!生活—生理痛を知って快適ライフ—』

18:45- 清水幸子(亀田メディカルセンター主任産婦人科部長、「女性の健康週間」委員長)
19:15- 明楽重夫(日本医科大学産婦人科学准教授)
* 終了後健康相談を受け付けます。(先着 12 名申し込み順)

②3月5日(木) 18:30～20:20 <対象:20 代からのすべての女性のために>

『あなたの子宮を守るために—若い女性に知ってほしい子宮頸がん—』

* 開始前に健康相談を受け付けます。(先着 9 名申し込み順)
18:30- ご挨拶 今村定臣(日本医師会常任理事)
18:35- 上坊敏子(社会保険相模野病院婦人科腫瘍センター長)
19:20- 鈴木光明(自治医科大学産婦人科講座主任教授)
* 終了後に健康相談を受け付けます。(先着 9 名申し込み順)

③3月6日(金) 13:30～15:30 <対象:40 代からのすべての女性のために>

『いつまでも美しく健やかに—メノポーズからのヘルスケア—』

13:30- 水沼英樹(弘前大学医学部産科婦人科学講座教授、日本更年期医学会理事長)
14:30- パネルディスカッション
水沼英樹(弘前大学医学部産科婦人科学講座教授、日本更年期医学会理事長)
神谷直樹(東京慈恵医科大学産婦人科教授、日本産婦人科医会常務理事)
吉川千明(美容家)
土屋真弓(モデリングオフィス AMA 代表)
* 終了後に健康相談を受け付けます。(先着 9 名申し込み順)

④3月7日(土) 13:30～15:30 <対象:妊娠中と妊娠をのぞむ女性のために>

『妊娠期に気をつけなければいけないこと —喫煙と歯周病—』

13:30- 対馬ルリ子(ウイミンズウェルネス銀座クリニック院長)
14:15- 志村真理子(NTT 東日本関東病院歯科口腔外科)
15:00- 対談

■女性の健康広場 in 未来館 お申込方法

参加希望の方は、ファックス、または E メールに、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、ご職業、参加希望セミナー番号、参加希望人数、質問事項をご記入の上、下記宛にお申込ください。追って案内をお送りします。

【ファックスで応募】 03-5565-4914 「女性の健康広場 in 未来館」事務局

【E メールで応募】 fwh@ellesnet.co.jp

■その他 女性の健康週間2009セミナーが各地で開催されます。

参加費無料

女性の健康広場 in 神戸

●日 時：3月6日(金)13:00～15:45 ●会 場：兵庫県医師会館 ●定員：250名

●テーマ：母と娘で学ぶ健康セミナー「生涯を通じた女性の健康づくり」

(開会挨拶) 日本産婦人科医会会長 寺尾俊彦

(基調講演)「生涯を通じた女性の健康づくり」 西山正徳(前厚生労働省健康局長)

(シンポジウム)「親から子へ伝えたい命の尊さと女性の病気」

コーディネーター 竹村秀雄(日本産婦人科医会副会長)

プレゼンター 鈴木光明(自治医科大学産科婦人科学教授)、川口恵子(川口レディースクリニック院長)、
今村定臣(日本医師会常任理事)

(特別講演) 石井苗子(女優・ヘルスケアカウンセラー)

(閉会挨拶) 三浦徹(日本産婦人科医会 兵庫県支部長)

●女性の健康広場 in 神戸 お申込方法：

参加希望の方は、①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤性別⑥職業⑦電話番号を明記の上、はがき、FAX
またはEメールにてお申してください。*応募1枚につき2名様まで。2名参加の場合、参加者全員の①～⑦をご記入
ください *申込締切：2月27日(金)必着。 *応募者多数の場合は抽選。

【住所】〒105-0004 東京都港区新橋2-20 新橋駅前ビル1号館9階 (株)協和企画コンベンション事業局内
「母と子で学ぶ健康セミナー」係 【FAX】03-3575-1695 【Eメール】 saminar@kk-kyowa.co.jp

女性の健康広場 in 山梨

●日 時：3月7日(土)13:30～15:45 ●会 場：山梨県立大学 池田キャンパス(看護学部・大学院)講堂

●定 員：300名 <対象 20代30代女性のために>

●テーマ：「えっ、子宮頸がんって、20代でもなるの? -20代30代に増えている子宮頸がんを予防するには」

(講演1)「子宮頸がんって、どんな病気?」 端晶彦(山梨大学医学部産婦人科学教室准教授)

(講演2)「子宮頸がんは100%予防できる」 今野良(自治医科大学さいたま医療センター産婦人科教授)

(トークショー) 星和彦(山梨大学医学部産婦人科教授・同附属病院病院長)、洞口依子(女優)

●女性の健康広場 in 山梨 お申込方法：

①～③の必要事項を明記の上、ファックスまたはEメールにてお申し込み下さい。追ってご案内をお送りします。

①お名前(ふりがな)②年齢③住所④電話番号⑤ファックス番号(ファックスでお申し込みの方)⑥ご職業⑦ご参加
人数⑧質問事項(あれば) Eメールでお申し込みの方は「女性の健康広場 in 山梨」参加希望とご記入ください。

【ファックスで応募】 03-5565-4914 「女性の健康広場 in 山梨」事務局

【Eメールで応募】 fwh@ellesnet.co.jp

女性の健康広場 in NAGOYA

●日 時：3月8日(日)14:00～16:30 ●会 場：ウィルあいち 愛知県女性総合センター

●定 員：300名(養護教諭、助産師などの専門家、一般女性)

●テーマ：(第1部)「子宮頸がん予防には検診を」 葛谷和夫(くずやクリニック院長)

(第2部)「更年期前後からのカラダの変化に備えよう」 若槻明彦(愛知医科大学産婦人科主任教授)

(第3部) 輝く女性たちと講師の先生とのプレミアムトークショー～更年期前後のセルフ&ビューティケア～

若槻明彦(同上)、杉浦真弓(名古屋市立大学医学部産婦人科教授)、

杉浦昭子(株式会社スギ薬局代表取締役副社長)、酒井ゆきえ(フリーアナウンサー)

●女性の健康広場 in NAGOYA お申込方法：

【WEBで応募】テルモのホームページのWEB申込フォームより必要事項を記入の上、ご応募ください。

(2月20日(金)23:59まで有効) <http://www.terumo.co.jp/healthcare/index.html>

【郵便はがきで応募】郵便はがきに、住所、お名前、電話番号と参加希望人数(2人まで)を記入し、

下記の宛先まで郵送にてご応募ください。(2月20日(金)当日消印有効)

〒151-8691 郵便事業 代々木支店 私書箱17号 テルモ「セミナー」係宛

■「地方部会」主催市民公開講座

(社)日本産科婦人科学会の「地方部会」による、「女性の健康週間」期間中に開催される公開講座です。

※市民公開講座の詳細につきましては(社)日本産科婦人科学会ホームページ(<http://www.jsog.or.jp/>)をご参照下さい。

地方部会	開催予定日	会場	テーマ
東京	H21.3.1	日本大学会館(東京 市谷)	女性の悪性腫瘍 - 乳癌・子宮癌・卵巣癌 (日本産婦人科乳癌学会と共催)
富山	H21.3.1	富山県民会館	ヒトパピローマウイルス感染と子宮頸がんについて
三重	H21.3.1	伊勢市観光文化会館	女性のための健康講座
岡山	H21.3.1	岡山国際交流センター	婦人科がん検診の大切さ
広島	H21.3.1	シャレオ	女性のライフサイクルと健康
静岡	H21.3.4	ホテルアソジア静岡 1Fチャペル	女性の健康と仕事(仮)
山形	H21.3.6	山形テルサ 研修室A	未定
千葉	H21.3.7	千葉市文化センター	知っていますか? 卵巣のはたらきとその病気
滋賀	H21.3.7	草津市立市民交流プラザ	滋賀県における周産期医療の現状
奈良	H21.3.7	学園前ホール	女性のための健康講座 1.今日からはじめるアンチエイジング生活 2.メタボ検診を知っていますか?これを機会に婦人科検診も受けましょう
和歌山	H21.3.7	和歌山県立医科大学講堂	『婦人科がん』はここまで治る～卵巣がん・子宮体がん・子宮頸がんの最新治療法～
島根	H21.3.7	カルチャープラザ仁多	女性のための健康講座
徳島	H21.3.7	新聞放送会館	「女性のための健康講座-閉経後をいよいよとすすために-」
香川	H21.3.7	サンポートホール高松	安心して赤ちゃんが産めなくなるの?
茨城	H21.3.8	つくば国際会議場	女性のための健康セミナー5

2009年「女性の健康週間」 女性の健康広場 セミナー 取材申込書

FAX 用お申し込み用紙<お申し込み締め切り:2月25日(水)>

女性の健康週間運営事務局行

FAX : 03-5565-4914

【取材を希望するプログラムをお知らせください】(○印をおつけください)

未来館	<input type="checkbox"/> 3/4(水) オープニング
	<input type="checkbox"/> 3/4(水)セミナー①『健康 美!美!美!生活—生理痛を知って快適ライフ—』
	<input type="checkbox"/> 3/5(木)セミナー②『あなたの子宮を守るために—若い女性に知ってほしい子宮頸がん—』
	<input type="checkbox"/> 3/6(金)セミナー③『いつまでも美しく健やかに—メノポーズからのヘルスケア—』
	<input type="checkbox"/> 3/7(土)セミナー④『妊娠期に気をつけなければいけないこと —喫煙と歯周病—』
神戸	<input type="checkbox"/> 3/6(金)セミナー 女性の健康広場 in 神戸
山梨	<input type="checkbox"/> 3/7(土)セミナー 女性の健康広場 in 山梨
名古屋	<input type="checkbox"/> 3/8(日)セミナー 女性の健康広場 in 名古屋

【貴社名】

【貴紙誌・番組名】

【ご芳名】

【ご所属】

【ご連絡先】電話:

FAX:

E-mail:

女性の健康週間 in 神戸
母と娘で学ぶ健康セミナー
「生涯を通じた女性の健康づくり」

実施企画書

2009年2月18日現在

主 催
(社)日本産婦人科医会、(社)日本産科婦人科学会
共 催
グラクソ・スミスクライン(株)
協 力
朝日新聞社、神戸新聞社

背景と主旨

2007年4月に策定された「新健康フロンティア戦略」(新健康フロンティア戦略賢人会議(座長:黒川清内閣特別顧問))において、「女性の健康力」が健康国家への挑戦の柱の一つに位置づけられ、国民運動として展開することになりました。女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすためには社会全体で総合的に支援する必要があります。

そこで、厚生労働省と(社)日本産婦人科医会および(社)日本産科婦人科学会などが主唱し、ひな祭りである3月3日を中心に「3月8日」の国際女性の日までの8日間を「女性の健康週間」と定め、内閣府、地方公共団体、(社)日本医師会などとも協力し、社会全体が一体となって女性特有の疾患、治療および予防の意義を患者のみならず、医療を担う人々にも啓発していく活動を行っております。

初年度(2008年3月)の市民公開講座(フォーラム)では「めざせ健康美人」というタイトルのもと、更年期からのヘルスケアをテーマに大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)にて、多数の参加をいただき開催いたしました。

2年目にあたる2009年には、女性特有の癌にスポットをあて、母と娘で学ぶ健康セミナー「生涯を通じた女性の健康づくり」を開催いたします。

とくに、乳癌について2番目に発症率の高い子宮頸がんの最新治療を中心に、女性があかるく健やかな生活を送るために知っておきたい講座を展開いたします。

- ー子宮頸がんは、仕事をもち、また女性として出産を考えたり、妻として子供や家族に責任を負っている20～30歳の女性において年々発症率が増加しており、20～30歳では一番発症率が高い癌である。
- ー子宮頸がんの原因のほぼ100%は発癌性ヒトパピローマウイルス(HPV)であり、そのHPVをターゲットした予防ワクチンによって、かなりの割合で予防することが可能である。
- ー主要な国々では、11歳～14歳の女子に公費負担で接種が行われている。
- ーまた、子宮頸がんは、早期発見すれば、ほぼ100%治すことができる。

など、女性が正しい知識を持ち、自らの体は自らが守るということを、母と娘で学ぶ機会となるよう啓発していきます。

実施概要

主催: (社)日本産婦人科医会、(社)日本産科婦人科学会

共催: グラクソ・スミスクライン(株)

後援: 厚生労働省、内閣府、兵庫県、(社)日本医師会、(社)兵庫県医師会、(社)日本栄養士会、(社)日本看護協会、(社)日本歯科医師会、(社)日本薬剤師会、(社)日本助産師会、日本乳癌検診学会、日本産婦人科乳癌学会、日本更年期医学会、日本周産期・新生児医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本女性心身医学会、全日本私立幼稚園PTA連合会、近畿産科婦人科学会、京都産婦人科医会、滋賀県産科婦人科医会、奈良県産婦人科医会、兵庫県産科婦人科学会、大阪産婦人科医会、和歌山県産婦人科医会

協力: 朝日新聞社、神戸新聞社

名称: 女性の健康週間 in 神戸

母と娘で学ぶ健康セミナー「生涯を通じた女性の健康づくり」

日時/会場: 2009年3月6日(金)13:00～15:45

兵庫県医師会館、定員 250名

聴講者: 産婦人科医、10代の娘さんとその母親、20歳～60歳の女性

参加費: 無料

運営事務局: (株)協和企画 コンベンション事業本部

LAP	テーマ(内容)	登壇者候補
12:15	開場	
13:00 (5分)	開会挨拶	寺尾 俊彦 (日本産婦人科医会 会長)
13:05～ (40分)	■基調講演 「生涯を通じた女性の健康づくり」	西山 正徳 先生 (前厚生労働省健康局長)
13:45～ (85分)	■シンポジウム 親から子へ伝えたい命の尊さと女性の病気 <コーディネータ> プレゼンテーション ① 子宮頸がんとその予防—現状と未来— (40分) ②女性のがんの予防と検診 (15分) ③女性の健康づくりに果たす産婦人科医の役わり (10分) フロアー質疑(20分) 会場のみなさんの質問に上記4名の先生方がお答えします。	竹村 秀雄 (日本産婦人科医会副会長) 鈴木 光明 日本産婦人科医会常務理事 (がん部会担当)、自治医科大学産科婦人科講座 主任教授 川口 恵子 先生 川口レディースクリニック院長 今村 定臣 先生 (日本医師会 常任理事)
15:10 (30分)	■特別講演 「乳癌検診・子宮癌検診にむけての ヘルスコミュニケーションの重要性」	石井 苗子さん (女優・ヘルスケアカウンセラー)
15:40～ (5分)	閉会挨拶	三浦 徹 (日本産婦人科医会理事・兵庫県支部長)
15:45	閉会	

生涯を通じた女性の健康づくり

3月1日～3月8日は、「女性の健康週間」です。



本セミナーでは子宮頸がんの最新治療を中心に、女性が明るく健やかな生活を送るために知っておきたい情報を、専門家の講演と会場の皆さんのご質問を交えご紹介します。子宮頸がんは、仕事を持ち、出産を考え、妻として、親として家族に責任を負っている20～30歳の女性の発症率が年々増加しております。20～30歳では乳がんを抜いて一番発症率が高い癌となっています。この機会に正しい知識をご家族で共有してみてもはどうでしょう。

日時

2009年3月6日(金)
13:00～15:45 (開場 12:15)

250名様
無料ご招待

お申し込み方法は裏面をご覧ください。

会場

兵庫県医師会館 2階大会議室

神戸市中央区磯上通6-1-11

【アクセス】JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神・市営地下鉄「三宮」駅より徒歩約8分 市営地下鉄海岸線「三宮・花時計前」駅より徒歩約3分

プログラム

- 総合司会 宮本 靖子 さん(フリーキャスター)
-
- 13:00 ● 開会挨拶 寺尾 俊彦 先生(日本産婦人科医会 会長)
-
- 13:05 ● 基調講演「生涯を通じた女性の健康づくり」
西山 正徳 先生(前厚生労働省 健康局長)
-
- 13:45 ● シンポジウム「親から子へ伝えたい命の尊さと女性の病気」
 <コーディネーター> 竹村 秀雄 先生(日本産婦人科医会 副会長)
 <プレゼンター> 鈴木 光明 先生(日本産婦人科医会 常務理事(がん部会担当)/自治医科大学産科婦人科講座 主任教授)
 川口 恵子 先生(川口レディースクリニック 院長)
 今村 定臣 先生(日本医師会 常任理事)
-
- <フロアー質疑> 会場の皆さんの質問に上記4名の先生方がお答えします。
-
- 15:10 ● 特別講演 石井 苗子 さん(女優・ヘルスケアカウンセラー)
-
- 15:40 ● 閉会挨拶 三浦 徹 先生(日本産婦人科医会 兵庫県支部長)



石井 苗子 さん

主 催：(社)日本産婦人科医会、(社)日本産科婦人科学会 共 催：グラクソ・スミスクライン(株)

後 援：厚生労働省、内閣府、兵庫県、(社)日本医師会、(社)兵庫県医師会、(社)日本栄養士会、(社)日本看護協会、(社)日本歯科医師会、(社)日本薬剤師会、(社)日本助産師会、日本乳癌検診学会、日本産婦人科乳癌学会、日本更年期医学会、日本周産期・新生児医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本女性心身医学会、全日本私立幼稚園PTA連合会、近畿産科婦人科学会、京都産婦人科医会、滋賀県産科婦人科医会、奈良県産婦人科医会 (以下申請中)：兵庫県産科婦人科医会、大阪産婦人科医会、和歌山県産婦人科医会

協 力：朝日新聞社、神戸新聞社

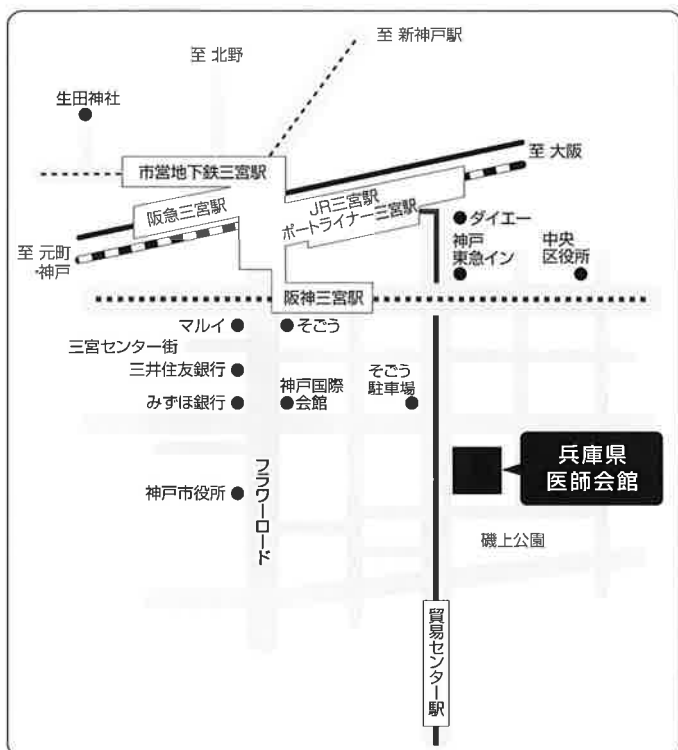
生涯を通じた女性の健康づくり

FAX参加申込書 03-3575-1695

ふりがな		年齢
お名前		職業
ご住所 (2名応募の場合は、全員の住所、氏名をご記入ください)	〒 — —	
電話番号	— —	参加人数 名

【個人情報の取扱いについて】

ご記入頂きました個人情報は、本セミナーのご出席者の確認に主催関係者のみで使用し、その他の第三者に提供することはありません。使用目的達成後にはすみやかに廃棄いたします。



お申し込み方法

参加ご希望の方は ①郵便番号 ②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤性別 ⑥職業 ⑦電話番号を明記の上、FAX、ハガキまたはEメールにてお申込み下さい。申し込みの際は、楷書でお書き下さい。申込締切:2月27日(金)必着。

◇1通の応募につき2名様までとさせていただきます。2名応募の場合は参加者全員の①～⑦をご記入下さい。

◇応募者多数の場合は、抽選を行いますのでご了承下さい。当選者発表は招待状の発送をもってかえさせていただきます。尚、「ご招待状」1枚につき1名様まで有効です。当日ご来場の際にお持ち下さい。

宛先・お問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋2-20 新橋駅前ビル1号館9階
(株)協和企画 コンベンション事業局内
「母と娘で学ぶ健康セミナー」係

- ▶ FAX 03-3575-1695
- ▶ Eメール seminar@kk-kyowa.co.jp
- ▶ TEL 03-3573-2066

(平日9時～17時。お電話は応募に関してのみ対応)

女性の健康週間



■趣旨

『女性の健康週間』活動は、産婦人科医が、女性の健康を生涯にわたって総合的に支援することを目指し、2005年に立ち上げました。この活動を通じて、もっと気軽に産婦人科の門をたたいていただき、女性が自分の健康への関心を高めて体の状態や仕組みについての知識を得、より健康に幸せになることを目指します。

■実施期間 例年3月初旬

※ひな祭りである「3月3日」を中心に、「3月8日」の国際女性の日までを「女性の健康週間」と決めました。

■メインテーマ

産婦人科医は、女性を守りつづけます。－生涯主治医がいる安心を－

■シンボルマーク

シンボルマークは women の W をモチーフに、上部に●を3つ並べることで母娘3代を示しています。産婦人科医による、女性の「生涯の健康」を「総合的に」サポートする姿勢をマークにしました。

■事業内容

1. 「女性の健康週間」の周知のために各地でキャンペーン活動を実施。
2. 女性の生涯健康手帳の配布 年間 20 万部配布

■「女性の健康週間」キャンペーン活動の経緯

第1回 女性の健康週間 2005 東京

会場：日本橋三越新館 7階・コミュニティーサロン

実施期間：2005年3月1日～7日

期間中来場者数：約4,000人

- 〈内容〉
- 1) シンボル展示：女性週間の趣旨、シンボルマークの意味の説明と学会
医会両会長のメッセージを入りに掲げた。
 - 2) テーマ展示：
 - ①女性の生涯健康展示
誕生から老年期までの女性の一生のホルモンサイクルや年代によって変
化する健康障害についてパネル展示した。
 - ②「産婦人科を訪ねる」を展示
受付から検査、治療まで産婦人科での診療のプロセスを解説。どんな検査
で何がわかるかなど、写真を多用したパネルを展示した。実際の超音波の
機械も設置した。
 - 3) 測定コーナー：骨密度、ドライマウス、血圧、心電図、内臓脂肪・
体水分量の測定を実施。実施時間は10時～18時30分。
 - 4) 産婦人科医による女性の健康相談：学会・医会の幹事に加えセミナー
の講師が相談者を務めた。
 - 5) 企業展示・販売コーナー：女性の健康週間の趣旨に賛同した企業によ
るブース展示、製品説明、サンプリング、アンケートなどが行われた。
 - 6) 産婦人科医による女性健康セミナー：多彩なテーマで17回のセミナー
を実施した。1回45分。
- 〈主催〉(社)日本産科婦人科学会、(社)日本産婦人科医会
〈後援〉厚生労働省、日本医師会、日本助産師会、日本薬剤師会、日本栄養士会、
日本看護協会、日本歯科医師会

第2回 女性の健康週間 2006 東京 2会場を実施

I. 働く女性の健康広場 in 丸の内

会場：丸の内オアゾ1階「おあぞひろば」

実施期間：2006年3月1日

来場者数：約1,890人

- 〈内容〉
- 1) 丸の内ビジョンでの情報提供：丸の内エリア内約50箇所にある丸の内
ビジョンを利用して、女性健康週間の告知と情報提供。
 - 2) 産婦人科医による働く女性の健康相談：学会・医会の「女性の健康週間
委員会」委員の産婦人科医が中心になり無料相談。
(実施時間)11:00～14:00 / 17:00～19:00 (人数)44名
 - 3) 骨密度測定：11:00～18:00の実施時間中273名が測定。
 - 4) 企業展示・販売コーナー：女性の健康週間の趣旨に賛同した企業に
よるブース展示、製品説明、サンプリングなどが行われた。

II. 三越女性の健康広場

会場：日本橋三越本店・本館1階・中央ホール

実施期間：2006年3月7・8日 10:00～19:00

来場者数：約1,900人

- 〈内容〉
- 1) パネル展示：
 - ①女性の生涯健康展示
年代によって変化する健康障害等についてパネル展示した。
 - ②「産婦人科を訪ねる」を展示

産婦人科での診療のプロセスを解説。

- 2) 産婦人科医による働く女性の健康相談：学会・医会の「女性の健康週間委員会」委員の産婦人科医が中心になり無料相談。
(実施時間) 11:00~14:00 / 17:00~19:00 (人数) 36名
- 3) 骨密度測定：11:00~18:00の実施時間中 800名が測定。
- 4) 企業展示・販売コーナー：女性の健康週間の趣旨に賛同した企業によるブース展示、製品説明、サンプリングなどが行われた。
- 5) 「女性の健康広場」ステージイベント：産婦人科医による講演や、著名ゲスト(かとうかず子さん、仁科亜希子さん、瀬川瑛子さん等)をお招きしての対談を実施。総合司会は松田輝雄さんが務めた。

〈主催〉(社)日本産科婦人科学会、(社)日本産婦人科医会

〈後援〉厚生労働省、日本医師会、日本助産師会、日本薬剤師会、日本栄養士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本乳癌検診学会

第3回 女性の健康週間 2007 東京、大阪、名古屋

I. 女性の健康広場 in 東京・葛西

会場：イトーヨーカドー葛西店 1階モールステージ

実施期間：2007年3月3・4日 11:00~18:00

来場者数：約500人

〈内容〉 1) パネル展示：

- ①女性の生涯健康展示
- ②「産婦人科を訪ねる」を展示

- 2) 産婦人科医による働く女性の健康相談：学会・医会の「女性の健康週間委員会」委員の産婦人科医が中心になり無料相談。
(実施時間) 13:00~16:30 (人数) 36名

- 3) 企業展示・販売コーナー

II. 女性の健康広場 in 名古屋

会場：三越新館ラシック 1階ラシックパサージュ

実施期間：2007年3月3日 11:00~18:00

来場者数：約2,000人

〈内容〉 1) パネル展示：

- ①女性の生涯健康展示
- ②「産婦人科を訪ねる」を展示

- 2) 産婦人科医による働く女性の健康相談：(相談人数) 38名

- 3) 企業展示・販売コーナー

III. 女性の健康広場 in 大阪 市民公開講座

会場：大阪市中心公会堂

実施日時：2007年3月3日 14:00~16:30

来場者数：約630人

〈テーマ〉 女性のためだけの公開講座

「今日からできる？女性のためのエンジョイライフ」

講師：遥 洋子(タレント・作家)等

〈主催〉(社)日本産科婦人科学会、(社)日本産婦人科医会

〈後援〉厚生労働省、日本医師会、日本助産師会、日本薬剤師会、日本栄養士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本乳癌検診学会、

日本産婦人科乳癌学会、日本更年期学会、日本周産期・新生児学会、
日本婦人科腫瘍学会、日本女性骨盤底学会、日本コンチネンス学会

第4回 女性の健康週間 2008 東京、大阪、名古屋

I. 女性の健康広場 in 表参道ヒルズ

会場：表参道ヒルズ 地下3階 スペース[O:](スペースオー)

実施期間：2008年3月3日 11:30~20:00

来場者数：約1000人

- 〈内容〉 1) 女性の健康を学ぶパネル展示・映像による情報提供
2) 著名人と産婦人科医による更年期についての対談、産婦人科医とのトークショー、産婦人科医による講演
3) 産婦人科医による女性の無料健康相談(人数限定)
(実施時間) 12:30~13:00 / 17:00~17:30

II. 女性の健康広場 in NAGOYA

会場：愛知県医師会館 9階大講堂

実施期間：2008年3月3日 17:00~19:00

来場者数：約140人

- 〈内容〉 1) 女性の健康に関する展示・情報提供
2) 産婦人科医による無料健康相談：(10名)
(実施時間) 17:00~18:00
3) 著名人と産婦人科医とのトークショー(300名)：
「いつか子どもを持ちたいあなたに・・・不妊、不育を知っておこう」

III. 三越女性の健康広場特別セミナー

会場：日本橋三越本店 本館7階特別食堂「不二の間」

実施日時：2008年3月6日 ①13:00~14:15 ②15:00~16:15

来場者数：約140人

- 〈テーマ〉 「女性のからだと美の関係～もっとステキに、もっとキレイに～」
講師：清水 幸子(医療法人鉄蕉会亀田総合病院主任産婦人科部長)

IV. 女性の健康力市民公開講座

会場：大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)

実施日時：2007年3月7日 13:00~16:20

来場者数：約220人

- 〈テーマ〉 「いつまでも健康美人!! 『40歳からの女性のヘルスケア』」
〈内容〉 1) 産婦人科医や著名人による講演、パネルディスカッション
2) 産婦人科医による無料健康相談

- 〈主唱〉(社)日本産科婦人科学会、(社)日本産婦人科医会、厚生労働省
〈後援〉厚生労働省、内閣府、日本医師会、日本助産師会、日本薬剤師会、
日本栄養士会、日本看護協会、日本歯科医師会、日本乳癌検診学会、
日本産婦人科乳癌学会、日本更年期医学会、日本周産期・新生児学会、
日本婦人科腫瘍学会、日本女性心身医学会